

《蒼き鷺羽根亭》シナリオ3-『泉と小人』

開催日：2013/03/01(金) 20時～

GM SELAY

PC **ディアラ**(シャドウ/女/スカウト3、グラップラー2、エンハ1、レンジャー1)

フェル(タビット/男/ウォーリーダー3、コンジャ2、セージ2)

ベアー(タビット/男/コンジャ3、セージ3)

うさ吾郎(タビット/男/マギテ3、シューター2、エンハ1、レンジャー1)

BB(人間/男/ファイター3、エンハ1、レンジャー1)

補足 今回、諸事情により、BBが途中から参加&ディアラが途中退場となっています。
また、BBが来るのを待つ為に出発までのシーンがかなり長くなってます('▽')

セッションを開始しました

GM：今回GMをつとめます SELAY です。よろしくおねがいしますー

ディアラ：(プレイヤー発言) よろしくおねがいしますー

フェル：(プレイヤー発言) よろしく～♪

ベアー：(プレイヤー発言) お願いします～

GM：SW2.0 ラクシアにある大陸「テラスティア」のザルツ地方のマップですー

GM：この中の自由都市連盟のひとつ「バーリント」の《蒼き鷺羽根亭》という冒険者の宿のギルドに所属している冒険者が君達です

GM：今回、みなさんは《蒼き鷺羽根亭》の一階にある酒場にいるところから始まります

ディアラ：(プレイヤー発言) いえーい！

ベアー：(プレイヤー発言) はい～

うさ吾郎：はいー

◆《蒼き鷺羽根亭》での朝のひとつ(オープニング1)

GM：時刻は朝。共有メモに書いてある依頼書は前日見て、各自応募したという形でお願いしますー

GM：それぞれ朝食タイムでくつろいでる時間だと思いますが、各自どんなことしてますか？

フェル：おいらは応募を済ませてテーブルでニンジンスティックをつまみにお酒をちびちびやってるところだな

ディアラ：朝のランニングから帰ってきて、朝食～♪

ベアー：朝食タイムならぼけーっとしてます

フェル：「うむ、朝はやっぱスティックに限る」

GM：エス(コボルト・メス・給仕)「はい、追加もありますよー」

ベアー：ニンジンスティックあるの！？

GM：>ベアー にんじんあります！

ベアー：じゃあその追加のください

ディアラ：「あ、あたしもあたしも！」

フェル：「ここの店の給仕は優秀だな」(ウンウンと満足そうにお代わりのスティックに手を伸ばす)

うさ吾郎：応募をすませて、銃の手入れ。後、マスターにマティーニを注文

GM：>うさ吾郎 ディアルト(店主)「朝から酒か。依頼に応募してたよな…」

うさ吾郎：一口のんで「むせる。」

フェル：(プレイヤー発言) 飲めないの!?w

GM：各自まったくくつろいでる中、店主のディアルトから呼び出しがかかります。

GM：ディアルト(店主)「ディアラ、うさ吾郎、ベアー、フェル、BB(今中身いないけど)。昨日応募してもらった依頼の件について話すから、右側のテーブル席に集まってくれ」

フェル：「ふむ、集まったか」(スティックのはいったカップを持ってテーブルへ

うさ吾郎：テーブルに近づく。(背後を警戒しながら)

ディアラ：「はい！」

GM：>うさ吾郎 ディアルト(店主)「この店の中ではそんなに警戒はしなくていい。ここで争いは起こさせないからな」

ベアー：ニンジンスティック争奪戦が！

ディアラ：「あ、もしかして今回のメンバーって・・・タビットさんいっぱい!?やった——！」

フェル：「むむ、おいらのスティックを狙う危険な視線を感じるぞ? (ｷｯｷｯｯ)」

GM：とりあえず、テーブルにみんな座ったら、エヌ(給仕)が追加の野菜スティックと各自に軽い飲み物を1人ずつ前においていきます

フェル：>ディアラ 「お嬢さんタビットに興味がおありかね？」

ディアラ：>フェル 「うん、あたし、タビットさん大好き♪」と毛皮をもふもふ

ディアラ：「あったかーい。やわらかーい」

フェル：「うむ、もう少し右を頼む」

ディアラ：「しあわせー♪」

ディアラ：もふもふもふもふ

フェル：「あー、そこだそこ」(笑顔)

うさ吾郎：ここで、フェルの口にニンジンスティックを1本ずつ突っ込む

フェル：「むご! あいううおあー！」

ディアラ：>うさ吾郎 「あ、こっちもタビットさん、だ・・・？」

フェル：(むご! なにするのだー!)

うさ吾郎：ひたすらフェルの口にスティックを突っ込む。

ベアー：(プレイヤー発言) ?がついた!

フェル：「あ・・・(でもうまい・・・)」(ｷｯｷｯｷｯ)

ディアラ：「お使いかあ。でも、温泉って楽しそう！」

フェル：>うさ吾郎 「おひはほ、ほほへはひひひっほはへ? (おいらのこの毛並みにしっとかね?)」

うさ吾郎：すかさず、喋れないように、フェルの口ににんじんをw

GM：ディアルト(店主)「(普通の遠足の人選だよなあ...) しかし、今回は異色なメンバーが集まったものだな」

GM：ディアルト(店主)「掲示していたこの依頼はお前達に任せることにする。お使い程度ですみそうだと思うが」

◆毎度恒例の自己紹介!

GM：ディアルト(店主)「まあ、今回初めて組むメンバーも多いだろう。まずはそれぞれ自己紹介からだな。」

GM：ということで、ディアラからー

ディアラ：「あたし、ディアラネット。ディアラって呼んでね！」

ディアラ：「家業の密偵を継いで父さんに言われて、二人で山奥で修行してたんだけど、嫌になったんで家出てきたの！」

フェル：「むごむご! (でも幸せそうに少しずつ食べてるw)」

ディアラ：「やっぱり、女の子だもんね。裏街道ばっかじゃなく人生楽しまなきゃ」

ディアラ：「よろしく! あ、それとリルちゃんからレンジャー技能を教わったよ！」

ディアラ：以上！

フェル：「ほほひふは！（よろしくだ！）」

GM：（プレイヤー発言） リルについては後で出てきます

ベアー：よろしく～

うさ吾郎：よろしくというふうに、うなずく

GM：>うさ吾郎 ディアルト(店主)「次はそこの…タビット？だな」

うさ吾郎：「うさ田 うさ吾郎だ。漢でスナイパーだ。うさ吾郎とよんでくれ。」

うさ吾郎：「俺とよくにた顔の本家本元のスナイパーに会うため旅をしている。後、俺の背後に立つな」

うさ吾郎：以上

フェル：「ふふ！ほほひふは！」（うむ！よろしくだ！）

ディアラ：「しぶーい！」

GM：>ベアー （プレイヤー発言） では次GO！

ベアー：ぼくはクマノベアー ベアーでいいよ

ベアー：お父さんを探すためにまずレベルをあげようってことで修行してます

ベアー：どんくさい（敏捷度ボーナス1）けどきにしないでね

ベアー：以上です

フェル：「ほほひふは！」（よろしくだ！）

ディアラ：>ベアー 「私より年下だ一。よろしくベアー君」

フェル：「ほひははへふひん＝へはは！」（おいらはフェルミン＝ゲラだ）

フェル：「・・・もごもごガジガジごっくん！」

ベアー：まだ食べてる！

フェル：「フェルと呼んでくれい！」

フェル：「自慢はこの毛並みだな！」

フェル：「気分が優れない時、なんかいらいらする時はおいらを存分にもふもふしたまえ。」

うさ吾郎：すかさず、人参スティックをフェルの口に突っ込む

フェル：「きっと気持ちが安らぐことだろう。」

ディアラ：>フェル 「あんなにたくさんの人参、一気に食べちゃった・・・すごい」

フェル：「むふお！」

ベアー：もふもふ許可が！

フェル：「ひほう！ほほひふはほふ！」（以上！よろしくたのむ！）

ベアー：よろしく～

ディアラ：「うさ吾郎さん、フェルさんいじめちゃだめですよ」

GM：エヌ(給仕)「はい、野菜スティックのおかわりはこっちですー。5Gですよ～」

うさ吾郎：よろしくと耳をたれる。

ディアラ：>フェル 「よろしくですー」

ベアー：野菜スティック一個ください

GM：>ベアー エヌ「はい、ただいまー」

◆依頼のお話。

GM：ディアルト(店主)「さて、自己紹介も終わったことだし、依頼について詳しい話をしてもいいかな？」

ベアー：(プレイヤー発言) はい～

ディアラ：「お願いしまーす」

フェル：「がじがじもぐもぐ(こくこく)」

GM：ディアルト(店主)「今回は、この前北西に薬草を取り入れた別の冒険者達が、途中で温泉を発見してな。それで、依頼書に書いてある通りに周囲の調査をお願いしたい」

GM：ディアルト(店主)「方向的にバルバロスの顎(蛮族がよく住処にしている洞窟群)が近いから、もしかしたら、近くにそういう場所があるかもしれない」

GM：「人族に敵対する蛮族がいた場合は、その排除も依頼の中に含まれることになる」

うさ吾郎：店主の言ってることに頷きながら、フェルがたべているであろう、人参スティックをうばい、ベアーに渡す。

ベアー：! ?

フェル：「むご！なかなかワイルドな御仁だな、ウサ吾郎殿」

ディアラ：「なるほど」

フェル：「危険手当は出るのかね？」

ベアー：店主の話聞きながらニンジンスティックもぐもぐ

GM：ディアルト(店主)「もし蛮族がいて手段を問わず追い払った場合は追加の手当てはもちろんだそう」

うさ吾郎：「蛮族の抹殺も仕事にはいるのだな。」とフェルの頬をひっぱりながら言う

GM：ディアルト(店主)「人族に危害加えそうな奴なら、抹殺の対象になる」

フェル：「(横に伸びながら)ふむ、それなら問題は無いだろう」

ディアラ：「んー、蛮族以外なら？動物とか」

フェル：「精霊種がいるかもしれんな」

GM：>ディアラ「同じくあきらかに凶暴で人族に危害を加えてきそうなら退治してくれ」

うさ吾郎：「店主、了解した」

ディアラ：>フェル「うわあ。それはあってみたいなあ」

ディアラ：>GM「はい」

GM：ディアルト(店主)「温泉にはヴァンニクがいて、そいつが管理しているらしい。まずはその温泉にいったら話聞いてみてくれ」

GM：とりあえず、『ヴァンニク』について、【見識】か【魔物知識】で判定してみてくださいー

GM：見識＝セージ・バード・アルケミ＋知力B

GM：魔物知識判定＝セージ・ライダー＋知力Bです

GM：知名度10です

ディアラ：2D6 合計：6 <5,1>

フェル：2D6+7 合計：12 <1,4>+7

うさ吾郎：2D6 合計：2 <1,1>

ベアー：2D6+7 合計：14 <3,4>

フェル：(プレイヤー発言) >うさ吾郎 おめでとーうw

うさ吾郎：(プレイヤー発言) ぐはっ

GM：>うさ吾郎 そして、50点おめー

GM：では、ベアーとフェルはわかります

GM：ヴァンニク。水の妖精。暖かい水の近くにいてきれい好きです。

GM：旅人を見かけたらとりあえず温泉を進めてくる変な奴です

フェル：「あの温泉の妖精か。奴らは変に厄介なのだよ」

ディアラ：>フェル 「さっすがだあ。フェルさんって物知り〜」

フェル：「5年後どこかの国の軍師として活躍する予定なのでな！これくらいは朝飯前だっ（顔がにやけてる）」

うさ吾郎：>フェル 「さっすがだな。」（マティーニーをのみながら）

ディアラ：>GM 「うん、わかった！」

うさ吾郎：にやけたフェルをみてまた、人参スティックをフェルの耳につきさす。

うさ吾郎：>店主 「了解した」

ベアー：ニンジンスティックまだあった！

GM：ディアルト(店主)「温泉までは、ここから1時間街道を北上した後で、西の森を進めば見つかる。地図はここにあるので、渡しておく」と一枚の地図を机におきます

フェル：「了解した、皆の者いこうでh（ぐさ！）NO・・・」

GM：ディアルト(店主)「いつものように、今回も俺から前金代わりにGPを渡す。っと、うさ吾郎・ベアー・フェルはここでの仕事は初めてだったな」

GM：と、3人に1枚ずつカードを渡してきます

フェル：「これは何かね？（耳を応急手当中）」

うさ吾郎：>店主 「ん？何だね。これは？」

ディアラ：「あ、カードだね？」カードを懐から取り出す。

GM：ディアルト(店主)「これは、このギルドの会員証兼ポイント蓄積できるものだ。失くさないように」

GM：要するにポイントカード！

うさ吾郎：>店主 「了解した」

フェル：「ほう！それはまた珍しい・・・（カードマジマジ）」

（カードの名前の話題で変に盛り上がる。そしてなぜか仮名『ダビットカード』に。いあ、正規のカード名はなんとなくGMの案はあるんだけどね。だから仮名で許して…！w）

GM：ディアルト(店主)「まあ、いろんな意味で『保険』にもなるカードだから捨てたりなくしたり、売り払わないように」

ディアラ：「はい」

ベアー：はい

うさ吾郎：「了解した」

GM：ディアルト(店主)「さて、毎度恒例の前金GPで好きな消耗品などを持っていけるが、何か持っていくか？」

ディアラ：「あ、それほしい。あとディアルトさん、今回の前金の1000GPってパーティー財産でだよな？」

GM：>ディアラ ディアルト(店主)「そうだ。それで何か持ってくといい」

GM：ディアルト(店主)「で…。一食分くらい保存食を用意してやろうと思ったんだが…」

GM：とディアルトが言った瞬間、厨房の方でドンガラガッシャーン！という音が

ディアラ：「ってなにになに！？！？」

フェル：「自前があるので心配するな、店主よ」つ「乾燥人参」

GM：ディアルトはやれやれと頭抱えてます

ディアラ：「あ・・・もしかして・・・」（厨房のぞく）

フェル：「おいしい、盛大な音がしたぞ？」（覗く）

◆厨房にて…(BB待ちのためにリルの隠し特技があきらかに)

GM：厨房覗くのなら、一人の少女が大きめのバスケットに何かをつめてます

GM：少女「あ、ディアラおねーちゃん！」

ディアラ：「やっぱり、リルちゃんかあ」

GM：リル「あのね。おねーちゃんとおにーちゃんが遠足に行くという話きいて、みんなの分のお弁当をつくったんだ。向こうで食べてくれるとうれしいな♪」

GM：リル「もちろん、うさぎさんのぶんもあるよー」

GM：(補足)リルという少女は、この1話前にPC達によってお持ち帰りされた人間の少女です

ベアー：(プレイヤー発言) 本当に遠足扱いになった

うさ吾郎：>リル 「ありがとう」 そういってタビット全員分の弁当を自分の袋に入れる。

フェル：>うさ吾郎 「(率先して重い荷物を一人で・・・これが年の功か・・・)(感心中)」

ベアー：>うさ吾郎 持ってきてくれるの？ありがとう

ディアラ：「うわあ、ありがと！じゃあもっていかせてもらうね」

うさ吾郎：「重いな」

フェル：(プレイヤー発言) タビットは非力だしね～♪

うさ吾郎：そう言って、フェルとベアーの分を今ここで食べる。

ベアー：誰の分かなんて分からないので気にしない

フェル：>うさ吾郎 「させんっ！（じゃんぷきーっく）」

ディアラ：(プレイヤー発言) >GM ちょっと聞いていい？・・・リルの腕前は？www

GM：>ディアラ (´▽`)

ディアラ：(プレイヤー発言) >GM OK、なんとなくわかったww

うさ吾郎：一口食べて、うさ吾郎はマーライオンになった。

ディアラ：>うさ吾郎 「あーっ！食べたあぁっ！」

GM：あ、食べたのか…

GM：>うさ吾郎 生命抵抗判定(冒険者レベル+生命B)

フェル：「くう・・・間に合わなかったか・・・」

GM：目標値はたったの10です！

ディアラ：(プレイヤー発言) >GM 高いよ！www

ベアー：(プレイヤー発言) 軽い効果かも？

うさ吾郎：2D6+5 合計：15 <4,6>+5

フェル：(プレイヤー発言) 強靱な肉体だ～w

うさ吾郎：「天国への階段がみえた。。。。」

ディアラ：>うさ吾郎 「まったくもう・・・」

GM：形は、円系の中がくりぬいたようなものですが…、食べると天国にいけそうでした

ディアラ：っと！リルちゃんとうさ吾郎の間に立って、うさ吾郎の様子を見せないようにします！

GM：リル「あ、お弁当こんなところでたべちゃだめだよー」

ベアー：(プレイヤー発言) 故意なのか実力なのか

GM：バレたので、後でWIKIのリルの項目かえてときます(リルの特殊能力【破壊的料理の腕前】)

ディアラ：>リル 「うんうん！そうだよね！出た先で食べるよー！」といそいそとお弁当回収。

GM：>ディアラ リル「うん！みんなのために一生懸命つくったんだよ！」

うさ吾郎：>リル「暗殺者にならないか？ここに養成所のパンフレットがry」

ディアラ：「わー！わー！わー！」

フェル：>ディアラ (こっそり手伝っておこう)(自分用の分は確保！)

ディアラ：>リル 「あ、あん・・・パンとかいいよねー！シャツに絵をかいたりしてー！」

ディアラ：>うさ吾郎 「しーっ！」

GM：>ディアラ 「いいよねー。またみんなのためにいろいろ作っとくね♪」

ディアラ：>リル 「う、うん！ありがとー！」

ディアラ：「(ひそひそ) お願い、リルちゃんあれで一生懸命なの。黙っててあげて」

うさ吾郎：>ディアラ 「・・・・・・・・善処する。」

うさ吾郎：未だに全身を痙攣させているようだ。

◆やばいので本編に帰還

GM：とりあえず、厨房でみんなワイワイしてると、ディアルト(店主)から呼ばれます

GM：ディアルト(店主)「おーい、前金渡すから一度戻ってこいー」

GM：この卓では前金でいくらかポイントがもらえます。このポイントでアイテムと交換できます

GM：リストは<http://www47.atpages.jp/sworld/blue/ListItem.html> 参照で

GM：これは「PTの所持品」となり、使わなかった場合依頼完了時に返却できます

ベアー：誰でも使えるならアウエイクポーションか魔晶石の入ったセットがよさそう？

GM：今回、合計1000GP分交換できます

ディアラ：1000GPで何買おうか。

うさ吾郎：個人的にはセットBとコンジャーラー用か、セットAとセットBか。。。

フェル：「おいらは必要ないな。皆が必要なものを選ぶといい」

ベアー：アウエイクポーション買い忘れたのでセットAがいいな～

うさ吾郎：(プレイヤー発言) じゃー現実的なのはセットA/Bでは？

GM：セットA+Bでいいかな？<PT交換品

ベアー：>セットA+B 反対する人いないならそれで～

ディアラ：(プレイヤー発言) A+Bでおっけーでーす！

フェル：(プレイヤー発言) おっけーい！

うさ吾郎：(プレイヤー発言) おkでーす

GM：では、今から出発でいいかな？

ディアラ：「うん！温泉おんせーん♪」

GM：今から向かえば、丁度真昼くらいにつけそうです

ベアー：一番後ろからついていきます

うさ吾郎：「エール酒がのみたい。温泉で」

ディアラ：ウキウキで先頭で歩いていきます。

うさ吾郎：>ベアー 「俺の背後にたつのか？いい度胸だw」

ディアラ：>うさ吾郎 「けんかはだめー！！」

ベアー：えーん

GM：今回は温泉までの探索系判定はなしで。地図あって場所も記載しているから迷いはしないと思うのでw

ディアラ：(プレイヤー発言) りょうかーい

うさ吾郎：(プレイヤー発言) (> ㇿ <)ゝ”了解!!

フェル：(プレイヤー発言) ほういほうい！

GM：では、温泉までシーン飛ばします

フェル：ばびゅーん！

◆温泉と小人

GM：森の中を進んでいく一行。前方に言われたような湯気があがっている場所を見つけます

ディアラ：「あ！あっちじゃないかな！」

フェル：「うむ！湯気が上がっているし、間違いはないだろう（ウキウキしながら早足ダッシュ）」

うさ吾郎：>フェル 「よし、偵察がてら飛び込むんだ。骨はひろってやる」

フェル：「ほう！一番風呂をいただけるのか。では（ｽｷﾞｽｷﾞ）」

ベアー：面白そうなのでついていきます

うさ吾郎：すかさず、フェルの乾燥人参をお湯につける。

ディアラ：>フェル 「きゃあ（赤面）・・・って毛皮だあww」

GM：そのままダイブ？w

フェル：「うむ、ダイブ！」

フェル：「とーう！（じゃぼーん！）」

GM：では、いきなり衣服を脱ぎ捨てて温泉に飛び込んだウサギ2匹を目を点にして見ている人影が2つあります

ディアラ：>フェル 「うわ、実は楽しみにしてたんだ、フェルさん・・・」

ベアー：じゃぼーん2

ディアラ：>ベアー 「ベアー君まで！？」

フェル：>ディアラ 「もちろんだ。温泉はいいものだ（ふやけ顔）」

うさ吾郎：ベアーの荷物をあさり、保存食をお湯に付ける。

フェル：>うさ吾郎 乾燥人参が膨れて普通のサイズに！

ディアラ：>うさ吾郎 「お湯に食べ物入れちゃダメ！お湯が汚れますー！」

ベアー：保存食一個しかないのに～

ディアラ：（プレイヤー発言） >GM 温泉の外？中？

GM：温泉のふちに一人、外に一人です

ベアー：（プレイヤー発言） 子供はとびこむはず？

GM：人影A（裸の少女/ヴァンニク）「だれかきたー」

GM：人影B（白い髪をした小人）「イキナリ ナンダ！？」

フェル：「ハハハ、ベアー君は元気だな。そんなに泳がんでも（にこやか）」

（ここからBB参戦。挨拶などはログ省略）

BB：「おめーら遠足かア？」>うさぎーず 可愛いですねw

うさ吾郎：>GM フェルとベアーの全保存食をお湯で戻したわけだが、お昼だし、調理はじめていい？

GM：>うさ吾郎 どぞー

うさ吾郎：達成度判定は？

フェル：>うさ吾郎 どんな料理になるかな～w

GM：料理。器用+コック系技能。なければ器用だけでふってみてー

うさ吾郎：使いやすい調理器具購入してるので、達成度+1でいい？

GM：>うさ吾郎 どぞー

うさ吾郎：2D6+2 合計：14 <6,6>+2

ディアラ：>GM 温泉に入り損ねたので、外からふちの人影見ます。

GM：>ディアラ 人影について。身長1mくらいで、白い髪をしている遠目から見ると子供ですね

ディアラ：（プレイヤー発言） >GM さっきの言葉はわかります？

GM：交易共通語しゃべってはいるけど、訛りがひどいです

GM：とりあえず、その子供に対して魔物知識判定することはできます

GM：まずは温泉堪能している人と、料理作ってる人以外w

フェル：「うむ、何よりもまずは温泉だ」

ベアー：バシヤバシヤバシヤ

ディアラ：Ok、じゃあ子どもに平目でまもちきはんてい！

ディアラ：2D6 合計：7 <2,5>

GM：>ディアラ 7じゃ届いてないけど、なんとなく蛮族な気がします

ディアラ：「・・・なんだろ、あれ？」

BB：こどもにひらめだまもちきー

BB：2D6 合計：4 <3,1>

BB：さっぱり！

GM：子供な気がしますw

ディアラ：>BB 「あ、BBさん、あれなんだかわかります？」

BB：「さあな。害がねーならいいんじゃないね。」>ディアラ

ディアラ：「なんとなくよくない予感・・・フェルさーん！ベアーくーん！」

GM：小人「オマエラ タノシソウダ。デモ イキナリ ビックリシタゾ」

フェル：「うむ？どうしたのかな？」

ディアラ：「うわ！」

ベアー：なにー？

ディアラ：>フェル 「ちよっとこっちきてー！」

フェル：「う、うむ・・・(名残惜しそうに出る)」

フェル：へばりついた毛並み

ベアー：はい～

フェル：>ディアラ 「どうしたのかな？おや、小人・・・」

フェル：(プレイヤー発言) まもちきいいかな！

GM：>フェル おk

フェル：2D6+7 合計：15 <5,3>+7

BB：よし温泉を堪能しているうさぎさんを摘みあげてこびとさんをみせよう。

ベアー：後ろに隠れて見ます

ベアー：2D6+7 合計：15 <6,2>+7

GM：15は分かります。レッドキャップのネームド「タスケ」

ディアラ：>小人 「ご、ごめんなさい。びっくりさせちゃいました！」

ディアラ：>小人「あたし、ディアラって言います。あなたは？」

GM：小人「オレ タスケ。オマエラ ボウケンシャ カ？」

GM：レッドキャップは普通は返り血で髪が赤くなってるはずですが、こいつは髪白いです

ディアラ：>小人 「はい！タスケさん！」

フェル：「うむ、いかにも。(ほう、レッドキャップか・・・)」

BB：「・・・蛮族か。」目つきが冷たく鋭くなる

うさ吾郎：「ふむ、料理ができたところだ。こっちにきて一緒に食べないか。タスケ」

ベアー：レッドキャップだ～(よく知らないけど)

ディアラ：>ベアー 「え、レッドキャップ？」

GM：>うさ吾郎 「イイ ニオイ。オレモ モラッテ イイノカ？」

フェル：(プレイヤー発言) >GM 戦意は無さそうかな？

ベアー：あれをあげるの！？

うさ吾郎：「いいとも。まー、座れ。」

GM：>フェル 見た感じ戦意は感じられませんね

うさ吾郎：ちなみに、出来は、6・6だったよ。

GM：すごいおいしい料理に。

フェル：>うさ吾郎 「ではおいらもいただく」

ディアラ：(プレイヤー発言) >うさ吾郎 超絶品！

ベアー：みんなで食べよう

フェル：「(何か事情があるのやもしれん、刺激はしないほうが良いだろう)」

ディアラ：>GM あ、温泉の中にいたのは？

GM：温泉にいたのは少女(ヴァンニク)ですね。前の判定に成功しているし自動でわかります

うさ吾郎：「料題はフェルとベアーの全保存食の温泉煮込み・フェルとベアーの出汁を添えて」

フェル：>ヴァンニク 「君もどうだい？」(料理を勧める)

ディアラ：そっか。「ヴァンニクさーん！いっしょに食べませんかー！」

GM：ヴァンニク「普通の食べ物食べたことないけど、面白そうだからもらうね」

ベアー：保存食ってリルお姉ちゃん？にもらったのしかないよ

うさ吾郎：>ベアー「フェルの全保存食もつかった。」

ディアラ：>うさ吾郎 ひどいww

BB：「蛮族はすぐに殺すか。ここの情報を締め上げた上で殺すか。・・・てか和んでんじゃねえよおめエら。」

ディアラ：>BB 「えー、だって別に何も悪いことしてないし」

フェル：>BB 「しっ！（情報を聞き出すのは拷問だけが手段ではないのだよ ニヤリ）」

GM：タスケ「ミンナ ヤサシイ。ソコノ ヒト オトコ ノ ハンノウ フツー ナノニ」

GM：てか、普通の言葉でしゃべりますね。こんな感じですつとしゃべってると思ってください

ベアー：敵が味方の中に！

BB：>GM 「うるセエよ。」

フェル：「おいらの第六感センサーに反応が無かったからな、君は戦意がないのだろう？では戦う理由はあるまい？」

うさ吾郎：こっそりとフェルとBBの料理をルリの保存食ととりかえる。

フェル：「(気付かずもぐもぐ)」

GM：タスケ「オレに戦う意思も力もない。お前たちが襲ってくるのなら逃げるしかできない」

GM：リルの弁当ね。食べるのなら生命抵抗ねw

GM：目標値あいかわらず10w

フェル：>GM (プレイヤー発言) よしきた！

フェル：2D6+6 合計：8 <1,1>+6

フェル：「ぶふお—————っ！」

うさ吾郎：わくわくしながらフェルとBBの様子を見る

ディアラ：>フェル おめでとうwwwww

GM：50てーん

うさ吾郎：(よし！！)

フェル：「(泡吹いてぴくぴく・・・)」

ディアラ：「ああ！フェルさんの顔色が紫色に！！」

ベアー：あ、50点いいな～

BB：警戒中なので食べないかなw

うさ吾郎：(・д・)ヲ

ディアラ：>ベアー 「(こっそり) ベアー君、レッドキャップって弱いのか？」

ベアー：>ディアラ さあ？ (笑)

ベアー：>GM レッドキャップって弱いんですか？

GM：>ベアー >ディアラ レッドキャップ。ルルブ1の342PかBT34Pで

GM：ベースはルルブにのっているものですが、それにスカウト技能追加されてるタイプです

ディアラ：(プレイヤー発言) >GM OK

ベアー：>GM はい～

(ここのタイミングでディアナが諸事情によりセッション離脱)

GM：>フェル タスケ「大丈夫か？毒にやられたか？」

うさ吾郎：>タスケ 「大丈夫だ。問題ない」

フェル：>タスケ 「ハッ！お花畑でおば様が手を振っておられた・・・(気が付いた)」

ベアー：>うさ吾郎 死亡フラグ！

BB：「何やってんだ・・・。」

GM：>BB タスケ「オレ、お前達と戦うつもりはない。人族にはオレから手ださない決めてる」

GM：>フェル とりあえず失敗したので3時間だけ全ての行為判定に-1のペナルティでw

フェル：(プレイヤー発言) おっけ～♪

ベアー：(プレイヤー発言) 結構長いな～

フェル：(プレイヤー発言) 丸1日とか覚悟してたから短いのだ==b

BB：「そいつはありがてえ。おめえの仲間も全部がそうなら俺らの仕事も楽なんだがな。」>タスケ

GM：タスケ「オレ変なのわかってる。そして、普通の蛮族を追ってここにいる」

うさ吾郎：(プレイヤー発言) リルの弁当は1個残ってるっわけか。>GM これトラップとして使えないかな？

GM：>うさ吾郎 使えないこともないけど、どのように使うかは考えてね

うさ吾郎：(プレイヤー発言) (> ㇿ <) ㇿ” 了解!!

GM：タスケ「見た感じおまえら遠足か？」

BB：>タスケ 「ワケありかい。強制はしねエが話してみな」

うさ吾郎：>タスケ「遠足だ。」

フェル：「うむ、それも兼ねている」

BB：>タスケ 「そうだな。」

GM：>フェル 「兼ねてる？何かやってるのか？」

フェル：「この周辺の調査で来たのだよ。まあおいらは温泉のほうが重要だがね」

GM：タスケ「ここの近く全部オレの庭。だからいろいろ知ってる」

GM：タスケ「そして、ここの北に少しいったところに蛮族が滞在してるのも知ってる」

フェル：「ほう！では君が案内してるれるのかい？」

GM：タスケ「もし、オレの頼み聞いてくれるのなら、ここのこと全部教える」

GM：タスケ「そこにも案内できる」

フェル：「うむ、話してみたまえ」

フェル：「(やるかは聞いてから決めればいいな・・・)」

BB：「そんなのーてんきでいいのかおめーら。」ふうw

うさ吾郎：>BB・ディアラ「どう思う？」と耳打ち。

BB：>うさ吾郎 「さてな。ワナならそんなときに叩いてもいいぜ俺は。」こそこそ

GM：タスケ「人族の冒険者によくある話。オレの代わりにそこにいる奴らを倒してほしい」

フェル：「こらこらベアー君、おいらの頭に乗るんじゃない・・・むむ・・・仕方がないなあ（肩車許可）」

ベアー：肩車された！

うさ吾郎：>タスケ 「続きをはなしてくれないか？」とフェルの腹に腹パンをいれる。

BB：>タスケ 「いいぜ。いくら出す？」

ベアー：（プレイヤー発言） なんでフェルに！？

GM：タスケ「受けてくれて倒してくれたら」と懐から拳より若干小さいくらいの黒い石を出します

GM：タスケ「この森の詳しい情報と、これでどうだ？」

うさ吾郎：（プレイヤー発言） 腹パンが成功したら二人共地面に倒れるから w

フェル：（プレイヤー発言） よし！よけてみせよう！ w

ベアー：（プレイヤー発言） 敵だー！

GM：ディアラとBBは、石について一度見覚えあります…が、石からでてる雰囲気は真逆と感ず

うさ吾郎：「誰か鑑定を」

BB：>タスケ「ふーん。こいつはどこで手に入れたんだ？」興味のないそぶりで

GM：>BB 「ここの近くで見つけた変な石」

BB：「オラ。いー加減仕事に戻りやがれウサギども。」

ベアー：えーん

うさ吾郎：「そうだ、早く判定をするんだ。ベアー、フェル」

GM：タスケ「ヴァンニクいうには、いっぱいマナたまってる。きっと売ればお金になる」

GM：鑑定は【宝物鑑定判定】（スカウト or セージ Lv+知力B+2D）でどぞー

ベアー：2D6+7 合計：13 <1,5>+7

フェル：2D6+7 合計：14 <2,5>+7

ベアー：肩車されたまま！

GM：なら2人もわかりますね。水の魔力がこめられた石。見た目は黒いけど、何かすれば違う形状に変化するんじゃないか？ということまでわかります

1. **GM**：最低でも2000Gはしそうです

フェル：「・・・という事だが、珍しいものだな。」

フェル：「おいらはこんなものを見るのははじめてだ・・・。（マジマジ）」

ベアー：ぼくもー（上から）

GM：タスケ「オレじゃ、あいつらどうにかするの無理。オレの依頼受けてくれるか？」

フェル：「ベアー君、この石幾らくらいの値打ちがありそうかね？」

うさ吾郎：「まず、あいつらについておしえてくれないか？」シャドーボクシングをしながら

BB：タスケ「報酬に文句はねエ。おめエの仲間とやらが蛮族なら蛮族退治は俺らの仕事だ。そこに文句はねエ」

ベアー：フェルさんのほうが知ってるのに（メタ

フェル：（プレイヤー発言） RP的に私が喋りすぎてるからね～><

ベアー：（プレイヤー発言） なるほど～そうやるんですか～

GM：タスケ「数は3体。1つは紫色の肌をした小人。もう2つはかつての仲間…だったけど、捕らえられてやつらに改造された慣れの果て」

BB：>タスケ 「ワナにでもかけようってんじゃないければかまわねえぜ。」

うさ吾郎：>タスケ「その操ってる奴ってのは、タスケと同じ種族かい？」

GM：>うさ吾郎 タスケ「違う。肌が紫で翼生えてる奴グレムリン。そいつが操ってる」

BB：>タスケ 「なるほどな。」

うさ吾郎：「なるほど」フェル・ベアー組の隙をうかがう。

GM：タスケ「グレムリンの強いやつ。おまえたちならわかるか？」

フェル：(プレイヤー発言) ではまもちき要求です！

GM：ということでほかの特徴も教えてください。魔物知識判定どぞー(セージ・ライダー+知力B) **ベアー**：なんか狙われてる！

フェル：2D6+7 合計：15 <2,6>+7

ベアー：2D6+7 合計：16 <5,4>+7

GM：データだしますね。直接はみてないので弱点はまだわかりません

GM：共有メモにのせました(※敵データについては一番最後の記載してます)

フェル：「う～む、こいつはディスガイズが使えたはずだな・・・」

GM：ついでに、改造されたという元仲間のデータはタスケ自身が教えてください

ベアー：(プレイヤー発言) プレイヤーと同じくらいの強さ？

うさ吾郎：>タスケ「なかなか、てごわそうだな。」

GM：正直、正面からぶつかるとやばいですね

GM：>うさ吾郎 「オレ、やつらがここの近くの洞窟にきてずっと様子みてた。だから、いろんなこと知ってる」

BB：>タスケ 「よし、ますこのあたりの地形とヤツラのアジト、一日の行動を教えろ。警戒が手薄になるのはいつだ」

ベアー：(プレイヤー発言) なるほど～グレムリン倒せと

GM：時間結構押してるので、RP 省略でデータだけ出します

敵の行動パターンについて(タスケからの情報)

1. タスケが敵の発見したのは4日前。ここから北にいった洞窟にいる。
2. 洞窟外でグレムリンを見たのは3日前に一回のみ(夜)。それ以外は外にでた形跡はない
3. タスケのことは敵にバレている…が、普通のレッドキャップごとき問題ではないとガン無視
4. 敵の目的は、森の調査と、ティール村侵攻用の斥侯。
5. 毎晩2匹の改造レッドキャップを交代で偵察に出している
6. 1匹目は日が落ちてすぐ洞窟から出て、月が頂上に昇る頃に洞窟に戻ってくる。
7. 2匹目は1匹目に戻って30分後くらいに洞窟から出て、日が昇る直前に洞窟に戻ってくる。

GM：相手に自分がバレていることは、タスケ自身も気づいてます

GM：ほかに質問があればタスケは分かる範囲で答えてくれます

ベアー：今何時ですか？

GM：今時間は結構いろいろしてたので14時くらいになってるものとします

ベアー：リルペナルティ消える夜まで待って改造レッドキャップ倒すか夕方でもグレムリン探しに行くか

うさ吾郎：>ベアー「ペナがあるのはきついと思うから、夜のほうがいいかもと思うのだが」

ベアー：じゃあ夜としてどっち先に倒すのがいいかな～

ベアー：斥侯ってことは他に居るかもしれないし

うさ吾郎：>PT 全員「それにグレムリン単体狙っても増援3体呼ばれるから、1匹ずつと思うのだがどう思う？」

GM：上記の感じなので、BBの質問の件に関しては「日が暮れた後から真夜中までの1匹目が出て行ってるタイミングか、その後の2匹目が出て行っているタイミングが中で手薄になるだろう」

GM：と答えますね

GM：>うさ吾郎 改造型、3人まとめて1つにされてるから、実質2匹ね

うさ吾郎：(プレイヤー発言) 了解

ベアー：外で一匹倒してその足で洞窟で突撃？

フェル：>ベアー（プレイヤー発言） 私はその案でOKだよ～♪

うさ吾郎：（プレイヤー発言）>ベアー その意見に賛成

GM：洞窟襲撃に向けて意見まとまったら、代表で誰か宣言してね

ベアー：たいまつ6本あったので大丈夫かな～

GM：>BB 何か他に聞きたいことなどあれば

ベアー：グレムリンが外に出る条件とかありますか？

BB：作戦の方は問題ないです。BBは夜見えないんで明かりが必要ですが

フェル：（プレイヤー発言）ウサギ軍団も見えないのでご心配なく！（エッハ）

ベアー：エッハ

うさ吾郎：たいまつがなくなっても照らせる！！マギスフィアで

GM：暗視あるのディアラだけでしたからね…

GM：なら、夜暮れて1匹目がでてきたところを叩く&その後で内部に襲撃でいいのかな？

BB：はい

うさ吾郎：了解

フェル：（プレイヤー発言）おっけ～♪

GM：では、そのまま洞窟の前でいいかな？

GM：たいまつはすぐつけてます？

フェル：（プレイヤー発言）明るい間はつけないかな～♪

BB：一体外に出るまではつけなくて隠れておくかな

うさ吾郎：同意

BB：タスケはついてきているのかな

GM：>BB タスケ「オレ、邪魔になるかもしれないからここ（温泉）でまっていたほうがいいか？」

GM：タスケ「邪魔じゃなければ見届けたい」

うさ吾郎：>タスケ「もし、仲間を抹殺することになったとしても、それに耐えられるか？」

GM：>うさ吾郎 タスケ「違う。オレが昔の仲間を殺してくれと頼んでる。だからキニスルナ」

うさ吾郎：>「了解だ。」

GM：ALL> タスケ「オレ、ついて行って問題ないか？」

ベアー：ぼくはいいよ～

フェル：「うむ、おいらは問題ない」

うさ吾郎：「大丈夫だ。問題ない」

BB：>タスケ「いいけどよ。ウサギどもを後ろからグッサリしやがったら殺すぜ。」

フェル：>BB 「まあ落ち着きたまえ。おいらをもふもふするかね？」

BB：>フェル 「いらねえよ。つたくノーテンキなウサギどもだぜ。」w

フェル：「ふむ、それは残念だ」

GM：>BB 「それで問題ない。普通の人族ならオレもう殺されてるかもしれない」

ここで、うさ吾郎がずっと要求したら腹パン判定(笑)

フェル・ベアー組1D+5、うさ吾郎2D+1(これもうさ吾郎のPLが指定w)

うさ吾郎：2D6+1 合計：10 <4,5>+1

GM：まあ、面白そうなので、フェル・ベアー。1D6+5よろ

ベアー：まだリルペナルティが！

GM：今回までねw

ベアー：1D6+5 合計：10 <5>+5

フェル：1D6+4 合計：7 <3>+4

BB：>フェル 「なんだアヤロウにもふって欲しかったのかよ。オラ、行くぜ。」 w

うさ吾郎：(プレイヤー発言) シャー、かついでるから、フェルには当たったー

フェル：「うむ、男女問わずもふもふさせてやっている・・・あー、もっとひだり」

フェル：いい笑顔のままふっとぶフェル！

うさ吾郎：「その前に。タビット流奥義、マーライオンブロウ」フェルにめがけて

ベアー：肩車されてるのでいっしょにふっとぶ

ベアー：ここ温泉？

うさ吾郎：「せい」

フェル：「ベアー君を守らねば！（とう！クッションになって助けよう）」

BB：>うさ吾郎 「アホか。とっとと拾って来い！」

うさ吾郎：「はい。」

ベアー：もふ

ベアー：フェルさんありがとう

◆洞窟前にて

GM：よし、すすめまーす。夕刻洞窟前にたどり着きます。小高い崖に空いた小さな入り口。タビットは問題なく入れますが、人間やシャドウだと少しかがまないと頭あたりそうです

GM：待ち伏せするなら、洞窟すぐにします？

フェル：(プレイヤー発言) その方がいいかな？

GM：今回スカウトのディアラが行動できないので、ある程度の見張りならタスケに頼めばやってくれます

BB：ファンキーなウサギたちを集めて現場まで引っ張っていきますねw

ベアー：おまかせします

GM：保護者大変ですw

うさ吾郎：>GM 洞窟付近に隠れやすい場所ありますか？

ベアー：保護者(笑)

GM：森の近くの図を出しました(⇒)

GM：こんな感じで回りはうっすらと木々が多い茂ってるから、隠れそうな場所は結構あります

ベアー：暗視欲しいな～

フェル：うんうん><

うさ吾郎：同じく

GM：夜のイベントだとねー

GM：そこは工夫で～

GM：でてきた1匹目の襲撃ポイントと明りの状況まで決まったら進めますー

うさ吾郎：(プレイヤー発言) 襲撃ポイントまでの移動にはあかりがいりますか？

GM：移動するだけなら判定は必要ないのでいりません

GM：襲撃ポイントといっても、洞窟前ですぐ戦闘にするか、少し離すか程度ですね

うさ吾郎：なるほど

ベアー：出てきたらタスケに教えてもらって少し離れたらたいまつ？

フェル：(プレイヤー発言) それが安定しそうだね～♪



うさ吾郎：賛成

ベアー：保護者いないけど（笑

フェル：（プレイヤー発言） 近接2人いるなら左右に分かれて挟み込んでも良さそうだけどね～><

GM：>フェル そうなんですよね…

GM：では、松明は先につけておく&少し離れて戦闘でいいかな？

うさ吾郎：了解

ベアー：はい

ベアー：無反応なら保存食たべなさそうだし

GM：では進めますね。といっても、ディアナいないのがありますが、洞窟からある程度離れて戦闘するのなら、1匹目はそのまま倒せたという形でいいです

うさ吾郎：了解です

GM：光見て逃走の可能性あったけど、ベターな選択肢は提示されてるので

GM：では、1匹目倒すと、そのまま改造レッドキャップは灰になります

ベアー：!?!?

フェル：（プレイヤー発言） では残る敵を倒したいけど・・・燻りだす～？

GM：とりあえず中は外のこと気づかれてはないようです

ベアー：洞窟狭いらしいので燻りだせるなら？

うさ吾郎：（プレイヤー発言） 燻り出すなら、入口でたきび？

ベアー：改造レッドキャップはディアラさんの一撃で灰になりましたまる

フェル：（プレイヤー発言） さすがだ～==+

BB：「後味がわりーな。」

GM：>BB タスケ「本当はオレがやらないといけないこと。代わりにやってもらってすまない」

BB：>タスケ 「おめーは報酬払って俺らを雇った。問題ねえよ。」

GM：>BB タスケ「そうか、ありがとう」（灰になったレッドキャップに対して祈りを捧げている）

GM：タスケ「中いぶりだすのか？さすがに中入れなかったから深さはわからない」

ベアー：BB おにいちゃんやさしいな～

BB：>ベアー 「俺のカオになんかついてるか。オラ次いくぞ。」

うさ吾郎：>PT 全員「燻り出すのに賛成かな。もしかしたら、慌てて武器忘れるかもしれないし」

BB：>うさ吾郎 「裏口があったら逃げるかも知れねえがな」

フェル：「うむ、B君が入れない以上おびき寄せるしか方法は・・・」

ベアー：裏口！

うさ吾郎：>BB「なるほど、一利ありだね」

GM：入れなくはないですよ。ちょい入り口はかがまないといけないくらいで

BB：>フェル 「B君ってか俺か！」w

フェル：>GM （プレイヤー発言） おっと！そうだったんだね！

ベアー：（プレイヤー発言） あ、入り口だけなんですか～

フェル：>BB 「うむ、びーちゃb bがよかったかね？」

うさ吾郎：「じゃー、入りますか」

フェル：（プレイヤー発言） びーちゃん><

フェル：（プレイヤー発言） >うさ吾郎 おっけ～！

フェル：（てくてこついていく）

BB：>フェル 「蹴るか踏むかどっちがお好みだ大先生エ？」びーちゃんOKですよw

GM：では、洞窟の中を進んでいく一行。狭いのは入り口から10mくらいまでで、それ以降は次第に広がっていき

ます。

ベアー：あ、たいまつ 魔法の発動体 盾の全部を持って移動できますか？

BB：>フェル >うさ吾郎 >ベアー 「それからてめーら転ばないようについてこいよー。」

GM：>ベアー 発動体指輪ぽいからいけます

GM：>BB なんというフラグ

うさ吾郎：(プレイヤー発言) よし、ここはあ・え・て転ぼう

フェル：>BB 「どうせならモフモフしてくれるほうが良いのだがね。(ついていく)」

ベアー：(プレイヤー発言) たしかにフラグだった(笑)

GM：ドシャ！うさ吾郎は派手に転ぶわけですね

うさ吾郎：(プレイヤー発言) GM 転んで、フェルとベアーのベルト掴んでいいですか？

GM：>うさ吾郎 GMにというより、他の2人に聞いてみて

フェル：(プレイヤー発言) むむ！？w 危険感知判定を要求なのだ！w

ベアー：たしかに危険だ～

うさ吾郎：(プレイヤー発言) >フェル・ベアー まきこんでいい？

フェル：(プレイヤー発言) かもーん！

ベアー：(プレイヤー発言) 面白そうなのでどうぞ

GM：>うさ吾郎 器用+冒険者LVで

GM：>フェル >ベアー それに対抗で危険感知でいきましょう

BB：>うさ吾郎 「行った側からナニやってんだアホか。」ぐわしっと掴みますw

GM：www

うさ吾郎：2D6+4 合計：7 <2,1>+4

GM：>BB 冒険者LV+筋力Bで7以上w

うさ吾郎：(プレイヤー発言) うはっ、こけない

フェル：(プレイヤー発言) びーちゃんかっこいい！

BB：いや1ぞろがある！

BB：2D6+9 合計：13 <2,2>+9

ベアー：こんなところで50点チャンス

GM：なら、こける前に捕まえました…が

GM：全員、隠密判定(スカウト or レンジャー+敏捷B。金属鎧は-4修正)

フェル：2D6 合計：6 <3,3>

ベアー：2D6 合計：9 <4,5>

BB：2D6+3 合計：14 <6,5>+3

うさ吾郎：2D6+3 合計：7 <2,2>+3

GM：金属鎧きてるBBが一番高いですが…。さすがに隠密は無理そうです

◆クライマックスシーン:紫と赤の小人

GM：では、そのまま静かに(?)漫才しながら進んでいく一行

フェル：これだけ騒いでるからね！w

GM：50mくらい進むと、少し広い部屋にでます

BB：なんてことだw

GM：で、さすがに相手に気づかれてるので、危険感知目標値…10(一一;)

フェル：(プレイヤー発言) 出番なのだうさぎ軍団！

BB : 2D6+3 合計 : 13 <4, 6>+3

ペアー : 2D6+7 合計 : 14 <4, 3>+7

フェル : 2D6+8 合計 : 18 <6, 4>+8

うさ吾郎 : 2D6+7 合計 : 16 <3, 6>+7

GM : では相手も不意打ちはできません。

GM : 奥に進むと、少し広い部屋にでます。そこにはPC側に手が6本はえたレッドキャップ、後ろに紫色の肌をしたグレムリンがいます

GM : 部屋に入ってきたPTを見て、グレムリンが後ろから交易共通語で話しかけてきます

GM : グレムリン 「ようこそ、といったほうがいいのかな？招かれざる客人たちよ。ここに何をしにきたのかは知らないが、お早めにご帰宅することを推奨するよ？(クスクス)」

BB : 「・・・ああ、こりゃどうしようもねえな。」

うさ吾郎 : 「じゃ、帰ります。」と言いながら2mあとずさる。

フェル : (プレイヤー発言) あっはっは～w

ペアー : 2m!

GM : グレムリン「そのうさぎは賢いな。さっさと帰るな(クスクス)」

ペアー : 相手はあんまり戦いたくない感じ？

うさ吾郎 : (プレイヤー発言) >GM 出口って裏口はないのですか？

GM : 後ろに通路はなさそうですね

うさ吾郎 : 耳を塞いで聞いてないふりをした

BB : >うさ吾郎 「マジか。」

うさ吾郎 : (プレイヤー発言) 裏口があれば、そっちに後ずさって背後から奇襲だったのにー

GM : >うさ吾郎 残念なそこまでのスペースはないかな

GM : やるとしたら正面からがよかったかも

フェル : >GM 「まあそんなに褒めるな(照) 勝手に照れておこう

BB : >GM 「すまねえな。こっちはガキの頃から捻くれてんだ。」

BB : 「それに仕事でな。」

うさ吾郎 : >GM 「忘れてた。仕事だった。」

GM : グレムリン「仕事？ああ、そこにいる裏切り者か。対して力もないくせにうろちょろと面倒この上ない」

GM : グレムリン「だが、そいつも蛮族。人族の冒険者にとって蛮族は倒すべき敵ではないのかね？」

BB : 「カネもらってるでな。わりいな。」武器構えましょう

フェル : 「人それぞれであろう？おいらは蛮族を受け入れる街をいくつかしっていてね(武器構える)」

うさ吾郎 : (プレイヤー発言) >GM 喋ってるところをいきなり遮って、フェルの先制判定で奇襲できないですか？

GM : >うさ吾郎 申し訳ないのですが、互いに不意打ち失敗してるから、先制判定後になります。

うさ吾郎 : 「仕事なんでな。」(武器を構える)

ペアー : 悪いことしてないならよくない？ニンジンスティック売ってくれるコボルトしてるよ(たいまつをかまえる)

GM : グレムリン「ふう、立ち去れないというのなら無理やりにでもお引取り願おうか」指をパチンと鳴らすと、前のレッドキャも武器を構えます

GM : では、戦闘に入ります

BB : >GM 「そうさな。コイツ(タスケ)が人族を襲えばコイツも殺すさ。」

BB : >GM 「まずはおめーらからだ。」

GM : >BB 「やれるなら…な」

フェル : (プレイヤー発言) 先に先制ふるよ～♪

GM：ということで先制判定どぞー

GM：こっちは11です

フェル：2D6+8 合計：14 <5,1>+8

BB：2D6 合計：11 <6,5>

ベアー：高い！

GM：では、PC側が先手です。左2つめのピンクのマスまでにまず好きな配置してください

初期配置はBBが前衛、ベアーがBBより2m後ろ、後衛にフェル・うさ吾郎。

◆1ターン目先攻：PCターン

フェル：「先においらが支援いれておこう」

フェル：「4倍拡大カウンターマジックだ！」

フェル：2D6+7 合計：10 <1,2>+7

GM：全員、精神抵抗+2されます

フェル：「そして鼓咆；堅陣の構え！硬く攻めるのだ！」 全員制限移動+2

BB：>フェル 「ありがてえ。やるねえ。」

ベアー：じゃあBBにファイアウエポンで

ベアー：2D6+7 合計：14 <5,2>+7

BB：>ベアー >フェル 「まかしときな！」ありがとうございます

うさ吾郎：補助動作 キャット愛 +クリティカルバレット 主動作 射撃

GM：はい、どぞー。こっちの回避は12です

BB：(プレイヤー発言) 猫愛！

うさ吾郎：2D6+4 合計：11 <1,6>+4

うさ吾郎：(°▽°)∴. ヲハッ!!

フェル：「ふむ（命中が少し弱点のようだな・・・指示を切り替えるか）」

BB：はいでは通常移動してRCに接敵。猫愛で攻撃します

GM：弱点で思い出したけど、さっきかなり高かったから両方弱点抜けでいいですよ

BB：2D6+7 合計：18 <5,6>+7

BB：R25C11+7 合計：14 <[2_6]> = <7>+7

GM：防護点3点なので11点もらいます

◆1ターン目後攻：エネミーターン

GM：まずグレムリンから動きます

GM：ファナティシズム>レッドキャップ、BB

GM：抵抗するのならこっちの行使判定値は14です

BB：いただいております。抵抗ナシで

GM：では命中+2、回避-2です

GM：そして、RCがBBに向かって攻撃します。命中は12+2で14です

GM：2発攻撃いくので、それぞれ回避よろです

BB：2D6+6 合計：12 <1,5>+6

BB：2D6+6 合計：15 <5,4>+6

GM：2D6+3 合計：10 <4,3>+3

BB：(プレイヤー発言) 4てんいただき

◆2ターン目先攻：PCターン

BB：>RC 「てめえの攻撃はそんなもんかァ！」

フェル：「指示を変更する！鼓咆；怒涛の攻陣Ⅱ 旋風！一気呵成に攻め立てるのだ！」 みんな命中+1（私以外

フェル：「(制限移動してBBへ) プロテクション！」

フェル：2D6+7 合計：10 <2,1>+7

GM：さらに硬くなりました(一一:)

ベアー：うさ吾郎にファナティシズムで

ベアー：2D6+7 合計：13 <5,1>+7

GM：>うさ吾郎 命中+2、回避-2になります。またフェルの鼓咆で命中がさらに+1 されます

うさ吾郎：ベアー・フェルありがとー

うさ吾郎：補助動作クリティカルバレット 主動作 射撃

BB：>フェル 「あいよ大先生！」ありがとうございます！

フェル：「フ・・・」==b 無言でビシッと親指立ててニヤリ

GM：こっこの回避は10です

うさ吾郎：2D6+7 合計：13 <1,5>+7

うさ吾郎：R20C9+8 合計：12 <[5_1]> = <4>+8

BB：>フェル 「COOL だぜ！」そして顔グラがたまらなくステキw

GM：12点くらいです。さっき再生忘れてたけどいいやw

フェル：(プレイヤー発言) >BB ありがとう！w

フェル：(プレイヤー発言) 頑張ってる書いた甲斐があるのだ~w

ベアー：(プレイヤー発言) 自分で書いたんですか！？すごっ！

うさ吾郎：(プレイヤー発言) すごい！！

フェル：(プレイヤー発言) 私こういうマンガっぽい絵は書き始めて3ヶ月だから、みんなもすぐできるよ！><

b

GM：ではラストBBー

BB：はいではRCに全力攻撃します

GM：どぞー。回避10です

BB：2D6+10 合計：22 <6,6>+10

BB：R25C11+11 合計：0 <[1_1]> = ファンブル！

GM：お約束…

フェル：(プレイヤー発言) 変転！？

うさ吾郎：(プレイヤー発言) ギャ77777—————(|||° Δ°)—————!!!!!!

ベアー：おお~

BB：お約束w

BB：いっちゃいますか変転！

ベアー：いってらっしゃい

うさ吾郎：いっちゃってください

フェル：(プレイヤー発言) いっけ~♪

GM：では、クリティカルでもう一度ー

GM：そのまま振っていいですよ、それに12出した分の10点足す形で

BB：R25C11+21 合計：26 <[4_2]> = <5>+21

フェル：(プレイヤー発言) うわーおw

GM : HP-13。RC は灰になりました

うさ吾郎 : (プレイヤー発言) うひゃひゃひゃひゃー

ベアー : がんばって2ターン目まで耐えた!

◆2ターン目後攻: エネミーターン

GM : グレムリン「ちっ、壁がいなくなったか。こっちじゃ逃げれないし一矢報いさせてもらうぞ」ということで、スパークをBBに

GM : 精神抵抗で目標値14です

BB : 2D6+7 合計: 15 <3, 5>+7

GM : ROC13+7 合計: 9 <[5_2]> = <2>+7

GM : なら半減の5点

BB : Pで-1して4てんいただきます

◆3ターン目先攻: PCターン

GM : では3ターン目。PCターンです。さっくりやっちゃってください

フェル : 「スパーク!」

フェル : 2D6+7 合計: 16 <3, 6>+7

GM : 狭い洞窟内に電撃が飛び交う!

フェル : ROC10+7 合計: 9 <[2_5]> = <2>+7

フェル : しゅぱーん!

GM : @ 2 7

フェル : 「ベアー君! うさ吾郎殿のあとにスパークを合わせるのだ!」

ベアー : はい~

うさ吾郎 : 補助動作 クリティカル・バレット 主動作 射撃

うさ吾郎 : 2D6+7 合計: 13 <4, 2>+7

うさ吾郎 : R20C9+8 合計: 27 <[6_6], [6_3], [3_1]> = <10, 7, 2>+8

GM : ぴったし0...w

フェル : (プレイヤー発言) うおうw

うさ吾郎 : ワ(ﾟдﾟ)オ!

ベアー : 強っ!

BB : >うさ吾郎 「やるじゃねえか! 男前だぜ。」

GM : では、うさ吾郎のヘッドショットをくらってグレムリンは倒れます

うさ吾郎 : >BB 「当然だ。」(うわ、どうしょ、まぐれきたよ。ρ(¯▽¯o)コレ)

フェル : (プレイヤー発言) ぎゃっぷがw

◆戦闘終了。そして...

GM : 終わったことを見届けたタスケは、灰になった仲間へ祈りを捧げてます

BB : >タスケ 「ったくおかしな蛮族だぜてめえはよ。」

BB : >タスケ 「オラ報酬よこしな。」

GM : >BB タスケ「ありがとう。これ渡す。あそこらの地図書く。ペンと紙ないか?」

ベアー : 青い石?と周辺の情報?

GM : >ベアー 一応石の見目は黒

BB : >タスケ 「見逃すのは気まぐれだからな。ヒト族襲うんじゃねえぞ。」

GM : >BB タスケ「オレ、人もう襲わない。安心しろ」

ベアー : 紙もペンもありません :

BB : 石はもらいましょう。そしてノーキンは筆記用具持ってませんw

ベアー : >GM はい~

ベアー : (プレイヤー発言) 今度買ってこよう

うさ吾郎 : 筆記用具一式ありません

フェル : 「おいらもないな・・・」

GM : あと、ここ一応グレムリンが住み込んでた部屋ですね。いろんなものが散らばってます

GM : 戦利品判定と探索判定どぞー

BB : >うさぎ一ず 「おめえら頭脳職だろうかよオ・・・。」

フェル : 「では何か書くものもあるかもしれん、探してみようではないか」

GM : 戦利品は、戦闘省略した奴の分もふっていいので3回

フェル : (プレイヤー発言) 戦利品は私以外のひとがふって~♪

GM : てか、戦利品判定はそっちでふってねw

GM : よく考えたら探索全員平目か(一一;)

ベアー : タスケ振ってくれないの!?

GM : では、戦利品判定をフェル以外。フェルは平目で探索後にタスケの分の2Dふって

探索判定結果 : 平目では全員失敗。タスケの分で成功

戦利品結果 : 奇妙な首飾り(160G)、武器×2(60G)、赤い髪×2(20G)

GM : さすがにPC達は全滅か。

GM : ならタスケが一枚の羊皮紙と、そこの近くにあった筆記用具を見つけます

GM : タスケ「筆記用具あったぞ。あとこんなものが」とみんなに羊皮紙を見せます。どうやら汎用蛮族語でかかれていますようですが、読める人ー?

うさ吾郎 : 読めない

ベアー : はい~

BB : ノーキンだからw

フェル : (プレイヤー発言) 読めない!w

GM : では、ベアは、この羊皮紙がここ南にある「ティール」という村の襲撃計画書であることがわかります

ベアー : タスケの情報にあった村だ

GM : タスケ「コレハ・・・」

BB : 「ウゼエ。」

GM : タスケ「オレ、すぐ村戻る。今回はありがとな」

BB : >タスケ 「待ちな。」

GM : >BB 「ナンダ？」

BB : >「冒険者、いらねえか？」

フェル : 「おいらでよければ支援しようではないか(エッハ)」

うさ吾郎 : 「いいだろう」

ベアー : (プレイヤー発言) お持ち帰り!?

BB : >タスケ 「高けエぞ。」

GM : タスケ「今回はこいつ倒したから大丈夫。だけど、今後危険になるかも。お前たちバーリントの冒険者なら、所属してるところ教えてもらえるか？」

GM：タスケ「あそこの街、知り合い何人かいる。」

BB：>タスケ 「かまわねエがおめーは来んなよ。」

BB：>フェル 「名乗ってやんなよ。大先生よお。」

フェル：「・・・・・・・・どこだっけ？（ウさ吾郎見て）」

うさ吾郎：「・・・・・・・・どこだっけ？（ベアーみて）」

BB：>ベアー >フェル >うさ吾郎 「おめーらマジで頭脳職か？」

ベアー：蒼き鷲羽根亭シリーズっていうくらいだからそこじゃない？

フェル：「ふふっ冗談だ、蒼き鷲羽根亭我々はそこに所属している」

フェル：「何かあればすぐに駆けつけようではないか！」

うさ吾郎：おもむろにカードを取り出し、カードでフェルの顔を叩く

フェル：「ぶへっ！」（涙が雫り

うさ吾郎：>フェル「オソイヨー。決め台詞がオソイヨー」

GM：タスケ「最近できた冒険者の店。オレ知ってる。なら、頼みたいことあったらエヌに伝える」

GM：タスケ「あいつもティール村の一人だから。じゃあ、オレもういく。ありがとな！」とタスケは去っていきま
すね

フェル：手を振って見送る

うさ吾郎：ベアーの尻尾を掴んで降る

GM：あ、忘れてたけど地図は詳細なもの書いておいていって来てます

GM：これを提出すれば依頼達成になりそうです

ベアー：お腹すいたのでニンジンスティック食べます

うさ吾郎：「いあ、待て。ベアーの保存食は料理で使い切ったはず。」

ベアー：保存食じゃなくて5Gで買ったやつ～

うさ吾郎：「(・д・)ㄴ」

BB：>ウサギーズ 「オラ俺らも帰るぞ。」

GM：では、宿に戻る形でいいかな？

ベアー：はい～

うさ吾郎：「ぬかったー」

うさ吾郎：はいー

フェル：（プレイヤー発言） おっけ～♪

BB：「遠足か。」

BB：はいー

◆《蒼き鷲羽根亭》に帰還

GM：では、翌日（さすがに夜は森の中出歩かないだろう）。蒼き鷲羽根亭に戻ってきます

GM：ディアルト「思ったより早かったな。それで仕事はうまくいったのか？」

フェル：「仕事終わりはやはりキャベツの芯スティックに限る」（ポリポリ

BB：>GM 「まあな。・・・遠足の引率はほかの誰かにたのみな。」

ベアー：新お菓子登場

GM：>BB 「タビットは勤が鋭いからこういう任務にうってつけだと思ったんだがな・・・」

BB：>GM 「向いてネエとはいわネエさ。」

フェル：>BB 「まあそういうでない。温泉に入れずすねているのか？ん～？」（ニヤニヤ

BB：>GM ゲットした羊皮紙を渡しましょう

BB : >GM 「まあ、新たな火種は手に入れたぜ。」

GM : 地図は提出するでしょうが、他何提出します？ 蛮族指令書も提出でしょうが

フェル : (プレイヤー発言) 石！

うさ吾郎 : フェルを提出します。

GM : フェル提出されても返却されますw

フェル : 「・・・いいんだおいらなんて・・・(ホリホリ)」

うさ吾郎 : じゃー、ベアーで

ベアー : ポイントと交換したアイテムとか？

GM : 交換したアイテムは自動的に戻してもらいます

ベアー : ここで働くの！？

GM : ベアーも返却されますよw

ベアー : 返却されました(笑

GM : あったこと全部報告する形でいいのかな？

うさ吾郎 : そうです。

ベアー : 全部報告でよさそう

BB : 全部報告して指令所も提出します。タスケのここはここではださずにあとで耳に入れます

GM : >BB 了解

ベアー : なるほど～

うさ吾郎 : じゃー、ベアーの両頬を引っ張りながら BB の意見にうなずきます

ベアー : 何故！？

うさ吾郎 : (プレイヤー発言) なんとなく手持ちぶさたで。

GM : ディアルト(店主)「思った以上にいろいろあったようだな。では、報酬を渡そう。全員カードだせ」

ベアー : ダビットカード！

フェル : つ「ダビットカード」

BB : >ベアー >うさ吾郎 「仲いいなおめえら。」

うさ吾郎 : 汚れていたの、ベアーの服で拭いてからさしだします。つ「ダビットカード」

GM : 今回の報酬の内訳。基本 3000、タスケの石 2000、指令書 1000、敵の撃破 1500 の計 7500GP です

GM : 悪いのですが、これを÷5してもらって一人当たり 1500GP になります

GM : カードにポイントたまりますー

GM : ディアルト(店主)「これで冒険に必要な武具・消耗品などと交換できたり、ガメルがよければ8掛でお金にすることもできる」

BB : >GM 「よしマスター。酒だ。」いただきました！

ベアー : >うさ吾郎 形見の服(嘘)が汚れたので責任とってください！

GM : ディアルト(店主)「ま、いつも通り任務達成でエール1杯ずつ奢ってやる。誰か音頭とるといい」

うさ吾郎 : >ベアー「温泉で洗ってくるよ。ひとまず、全部脱いで、ベアー」

GM : >ベアー ひどすw

ベアー : うさ吾郎おじちゃん？のえっち！

GM : ということで、エヌ(給仕)がそれぞれ野菜スティックセットとエールを全員に

GM : 1つずつ持ってきてくれますよ

BB : >GM 「すまねえな。俺アそういうのは苦手でな。」

BB : エールいただいて酒場の端にでも退散しよう

うさ吾郎 : BB の前に立ちほだかる。「カバディー、カバディー、カバディー」

うさ吾郎 : 左右にフットワークをとりながら

BB : >うさ吾郎 よし。野菜スティック押し付けるw

GM : ディアルト(店主)「ならウサギーズ。3人とも今回がここでの初任務達成だ。今後のためにも祝杯あげるといい」

ベアー : 子供なのでBB お兄ちゃんのところにこそっとエール置いて逃げます

BB : >うさ吾郎 「軽ィなフットワーク。」

フェル : 「うむ！ではいただくとしよう！かんぱ・・・おいらだけか・・・orz」

BB : >フェル 「しょうがねエな。」

BB : >フェル 「オラよ。おつかれさん。」軽くカップふれあわせる

うさ吾郎 : >フェル 「仕切りなおして乾杯の音頭を、フェル」といいつつ、野菜スティックをフェルの鼻に突き刺す準備をする。

フェル : 「では改めて・・・かんぱ——い！」

BB : >GM 「マスター。こっちの冒険者にニンジンジュース。俺のおごりでな。」ベアー指差し

うさ吾郎 : 「今だー。隙アリー」

ベアー : 「かんぱーい ぽりぽり」

うさ吾郎 : 「かんぺー」

ベアー : 「バレテタ」

BB : >フェル 「・・・おつかれ。」

フェル : 「もがもが」

GM : (もうちょい最後RP時間とる予定だったけど、時間押しすぎてしまってるので)そんなこんなで変な盛り上がりを見せるウサギーズ+保護者。朝っぱらからワイワイと騒いでるところで、今回のシナリオは終了としますねー。おつかれさまでしたー

【巻末1：編集者(GMより)ログの感想や意見募集!】

えと、ログの公開はこれが2つめとなります。2回目のセッションに関してはFT0 鯖のラグがひどすぎて、途中からどどんとふを使用したためにログがごちゃまぜになり、編集やれてもかなり時間がかかりそうなので、先に第三話の公開となりました。

正直、リプレイとしては読めない代物です。ある程度関係ないPL 発言のカットや、発言の順番変更などしか基本的にやってません。(誤字や情報修正もかなり適当です)

それでも公開している理由は、《蒼き鷺羽根亭》シリーズがフリーキャンペーンと銘打っているからです。毎回話自体は完結しますが、他の話の NPC や出てきたアイテムと多少リンクさせています。

実際、今回出てきたレッドキャップ「タスケ」ですが、一話目にちらっと話出てきています。(温泉でのヴァンニクの話の内容参照)

やっぱりキャンペーンと銘打っている以上、大きなストーリーは作りたい、でもやっぱりフリー卓で続けたいという気持ちのジレンマがあり、情報開示がこういう手段が一番いいかなーと。

編集能力がもう少し高ければいろいろできると思いますが、これくらいで勘弁で(つひ)

【巻末2：敵データ】

ディープグレムリン

※かけら3つ入

MLV:4 知能:人間並み 反応:敵対的 言語:交易共通語、汎用蛮族語、妖魔語

知名度:9/14 弱点:風属性ダメージ+3 先制値:11 移動速度:10/18(飛行)

生命抵抗:12 精神抵抗:13

攻撃方法:牙／命中11／打撃点2D6 回避12／防護点0

HP21(36) MP27(29)

■特殊能力

✖操霊魔法4レベル／魔力7(14)

レ魔法拡大/数

○飛行 近接攻撃の命中・回避に+1のボーナスを得ます

魔改造レッドキャップ

※かけら1つ入

MLV:4 知能:命令に従う 反応:無反応 言語:妖魔語

知名度:9/14 弱点:命中+1 先制値:11 移動速度:13

攻撃方法:武器 命中 12 威力 2d+3

回避 12 防護点 3

HP28(33) MP14(15)

【特殊能力】

○精神効果(弱)無効 ✖2回攻撃&双撃

○再生=3点 手番の終了時に、HPが「3」点回復します。HPが0以下になるとこの効果は失われます。

【解説】

タスケのかつての村の住人。

3人を一まとめにしたような容姿をしており、手が6本生えている。

改造された際に、感情や自我をなくしており、命令者に従うことしかできない。